



## 概 況

### 1 取扱高

#### (1) 総取扱高

平成5年中における東京都中央卸売市場花き部の開場日数は北足立市場299日、大田市場268日、平成5年2月24日開場の板橋市場は258日で、前年より北足立市場は増減なし、大田市場は9月から11月までの木曜日試行開市の関係で15日増えた。総取扱実績は数量は、部類によって単位が違うので算出できないが、金額は593億1030万1千円を示した。この金額を前年と比較すると31.0% (140億4463万円)の増加となった。また、1日当たりの取扱高についてみると金額は、2億1731万5千円で前年と比較すると27.1% (4634万8千円)の増加という実績を示した。

#### (2) 部別取扱高

- ①切花 総取扱数量は5億9827万2千本、金額は412億4307万7千円となり、前年と比べると数量は38.5% (1億6637万9千本)、金額は37.5% (112億5134万2千円)の増加となった。
- ②切葉 総取扱数量は4075万8千枚、金額は11億7729万4千円となり、前年と比べると数量は36.5% (1090万2千枚)、金額は28.8% (2億6310万3千円)の増加となった。
- ③切枝 総取扱数量は1241万2千束、金額は28億4740万3千円となり、前年と比べると数量は46.6% (394万5千束)、金額は29.4% (6億4750万円)の増加となった。
- ④鉢花 総取扱数量は1568万1千鉢、金額は51億3528万5千円となり、前年と比べると数量は17.5% (233万5千鉢)、金額は18.2% (7億9111万9千円)の増加となった。
- ⑤らん鉢 総取扱数量は145万5千鉢、金額は33億4945万円となり、前年と比べると数量は22.5% (26万7千鉢)、金額は20.2% (5億6190万3千円)の増加となった。
- ⑥観葉植物 総取扱数量は605万6千鉢、金額は34億7971万円となり、前年と比べると数量は13.9% (73万9千鉢)の増加、金額は1.2% (4171万3千円)の減少となった。
- ⑦観賞樹 総取扱数量は175万1千鉢、金額は9億7455万8千円となり、前年と比べると数量は17.0% (25万3千鉢)、金額は9.1% (8130万5千円)の増加となった。
- ⑧苗物 総取扱数量は62万1千箱、金額は8億2234万6千円となり、前年と比べると数量は73.1% (26万2千箱)、金額は79.8% (3億6502万4千円)の増加となった。
- ⑨その他花き 総取扱数量は17万3千箱、金額は2億8117万5千円となり、前年と比べると数量は39.2% (4万8千箱)、金額は80.1% (1億2504万2千円)の増加となった。

#### (3) 市場別取扱高

##### ①北足立市場

総取扱金額は、138億4723万5千円で前年と比べると5.9% (7億7590万5千円)の増加となった。類別にみると切花の数量は1億4188万4

千本で前年比2.7% (372万8千本)の増加、金額は95億6530万1千円で前年比6.7% (6億2万5千円)の増加となった。平均価格は67円。切葉の数量は1030万4千枚で前年比7.2% (69万6千枚)の増加、金額は3億572万4千円で前年比3.1% (905万円)の増加となった。平均価格は30円。切枝の数量は、414万2千束で前年比12.7% (46万8千束)の増加、金額は7億3800万7千円で前年比4.1% (3152万円)の減少となった。平均価格は178円。鉢花の数量は371万7千鉢で前年比12.3% (40万6千鉢)、金額は13億992万7千円で前年比8.7% (1億523万3千円)で、共に増加した。平均価格は352円。らん鉢の数量は39万鉢で前年比11.1% (3万9千鉢)、金額は8億2071万2千円で前年比10.1% (7517万3千円)で、共に増加した。平均価格は2103円。観葉植物の数量は111万7千鉢で前年比4.0% (4万3千鉢)の増加、金額は6億496万3千円で前年比8.8% (5833万1千円)の減少となった。平均価格は541円。観賞樹の数量は47万鉢で前年比7.0% (3万鉢)、金額は2億5781万円で前年比6.7% (1621万2千円)で、共に増加した。平均価格は548円。苗物の数量は14万9千箱で前年比18.6% (2万3千箱)、金額は2億349万2千円で前年比34.8% (5250万8千円)で、共に増加した。平均価格は1363円。その他花きの数量は11万5千箱で前年比21.0% (2万箱)、金額は4129万5千円で前年比22.4% (755万3千円)で、共に増加した。平均価格は359円。

##### ②大田市場

総取扱金額は、360億2313万8千円で前年比11.9% (38億2879万5千円)の増加となった。類別にみると切花の数量は3億2885万7千本で前年比12.0% (3512万本)、金額は235億9490万9千円で前年比12.2% (25億6844万8千円)で、共に増加した。平均価格は72円。切葉の数量は2247万6千枚で前年比11.0% (222万8千枚)、金額は6億8565万2千円で前年比11.0% (6813万5千円)で、共に増加した。平均価格は31円。切枝の数量は557万4千束で前年比16.3% (78万2千束)、金額は16億131万3千円で前年比12.0% (1億7093万8千円)で、共に増加した。平均価格は287円。鉢花の数量は1120万6千鉢で前年比11.7% (117万鉢)、金額は35億7245万9千円で前年比13.8% (4億3298万8千円)で、共に増加した。平均価格は319円。らん鉢の数量は100万4千鉢で前年比20.0% (16万7千鉢)、金額は23億4786万6千円で前年比15.0% (3億585万8千円)で、共に増加した。平均価格は2337円。観葉植物の数量は474万2千鉢で前年比11.8% (50万鉢)の増加、金額は27億7075万5千円で前年比3.1% (8737万2千円)の減少となった。平均価格は584円。観賞樹の数量は122万2千鉢で前年比15.6% (16万4千鉢)、金額は6億8103万6千円で前年比4.5% (2938万1千円)で、共に増加した。平均価格は557円。苗物の数量は45万4千箱で前年比95.0% (22万1千箱)、金額は5億9532万7千円で前年比94.3% (2億8898万9千円)で、共に増加した。平均価格は1311円。その他花きの数量は4万5千箱で前年比55.0% (1万6千箱)、金額は1億7381万9千円で前年比42.0% (5142万8千円)で、共に増加した。平均価格は3814円。

##### ③板橋市場

総取扱金額は、94億3992万8千円であった。部類別でみると、切花が80億8286万9千円と全体の85.6%を占めている。次いで切枝が5億808万2千円で5.4%、鉢花が2億5289万8千円で2.7%、切葉が1億8591万7千

円で2.0%の順であった。数量ではトップが切花で1億2753万1千本、次いで切葉が797万7千枚、切枝が269万5千束の順であった。部類別平均価格は、切花が1本当たり63円。切枝が1束当たり189円。鉢物が535円となっている。1日当たりの取扱高は、金額は、3658万9千円であった。部類別でみると、切花が3132万9千円、切枝が196万9千円、鉢物が22万3千円であった。数量は切花が49万4千本、切枝が1万束、鉢物が4千鉢となっている。

#### (4) 卸売業者別取扱高

##### ①(株)第一花き

総取扱金額は、100億6695万円で前年比7.2%(6億7238万5千円)の増加となった。類別にみると、切花の数量は1億295万5千本で前年比2.9%(286万5千本)、金額は73億6209万円で前年比7.4%(5億581万5千円)で、共に増加した。平均価格は72円。切葉の数量は732万8千枚で前年比10.2%(67万8千枚)、金額は2億1937万9千円で前年比3.4%(724万5千円)で、共に増加した。平均価格は30円。切枝の数量は280万1千束で前年比5.1%(13万6千束)の増加、金額は5億4249万3千円で前年比7.6%(4491万7千円)の減少となった。平均価格は194円。鉢物の数量は216万5千鉢で前年比22.7%(40万鉢)、金額は7億8371万4千円で前年比16.6%(1億1155万5千円)で共に増加した。平均価格は362円。らん鉢の数量は19万7千鉢で前年比12.2%(2万1千鉢)、金額は4億8572万4千円で前年比11.7%(5103万3千円)で、共に増加した。平均価格は2460円。観葉植物の数量は64万6千鉢で前年比16.9%(9万3千鉢)の増加、金額は3億3911万8千円で前年比2.7%(927万1千円)の減少となった。平均価格は525円。観賞樹の数量は27万9千鉢で前年比2.2%(6千鉢)、金額は1億6717万6千円で前年比6.6%(1041万7千円)で、共に増加した。平均価格は600円。苗物の数量は9万4千箱で前年比33.1%(2万3千箱)、金額は1億2925万円で前年比34.2%(3290万3千円)で、共に増加した。平均価格は1377円。その他花きの数量は10万3千箱で前年比17.5%(1万5千箱)、金額は3800万5千円で前年比25.0%(760万4千円)で、共に増加した。平均価格は370円。

##### ②(株)東京花き

総取扱金額は、37億8028万6千円で前年比2.8%(1億352万1千円)の増加となった。類別にみると切花の数量は3893万本で前年比2.3%(86万4千本)、金額は22億321万1千円で前年比4.5%(9421万円)で、共に増加した。平均価格は57円。切葉の数量は297万6千枚で前年比0.6%(1万8千枚)、金額は8634万6千円で前年比2.1%(180万6千円)で、共に増加した。平均価格は29円。切枝の数量は134万1千束で前年比32.8%(33万1千束)、金額は1億9551万4千円で前年比7.4%(134万円)で、共に増加した。平均価格は146円。鉢物の数量は155万2千鉢で前年比0.4%(6千鉢)の増加、金額は5億2621万4千円で前年比1.2%(632万2千円)の減少となった。平均価格は340円。らん鉢の数量は19万3千鉢で前年比10.0%(1万8千鉢)の増加、金額は3億3498万9千円で前年比7.8%(2414万円)で、共に増加した。平均価格は1738円。観葉植物の数量は47万2千鉢で前年比9.6%(5万鉢)、金額は2億6584万6千円で前年比15.6%

(4906万円)で、共に減少した。平均価格は564円。観賞樹の数量は19万1千鉢で前年比14.9%(2万5千鉢)、金額は9063万4千円で前年比6.8%(579万5千円)で、共に増加した。平均価格は473円。苗物の数量は5万5千箱で前年比0.2%(92箱)、金額は7424万2千円で前年比35.9%(1960万5千円)で、共に増加した。平均価格は1340円。その他花きの数量は1万2千箱で前年比61.4%(5千箱)の増加、金額は329万円で前年比1.5%(5万円)の減少となった。平均価格は267円。

##### ③(株)大田花き

総取扱金額は、212億7877万円で前年比12.9%(24億2893万5千円)の増加となった。類別にみると切花の数量は2億4605万7千本で前年比12.8%(2794万本)、金額は178億1316万2千円で前年比12.7%(20億948万円)で、共に増加した。平均価格は72円。切葉の数量は1440万3千枚で前年比11.9%(153万5千枚)、金額は4億3159万3千円で前年比11.9%(4584万9千円)で、共に増加した。平均価格は30円。切枝の数量は378万9千束で前年比12.4%(41万8千束)、金額は9億7909万4千円で前年比13.6%(1億1755万5千円)で、共に増加した。平均価格は258円。鉢物の数量は202万8千鉢で前年比20.4%(34万3千鉢)、金額は7億4888万1千円で前年比13.1%(8702万5千円)で、共に増加した。平均価格は369円。らん鉢の数量は21万7千鉢で前年比27.2%(4万6千鉢)、金額は6億6713万9千円で前年比17.1%(9719万円)で、共に増加した。平均価格は3069円。観葉植物の数量は69万鉢で前年比10.7%(6万7千鉢)の増加、金額は3億428万7千円で前年比4.1%(1296万3千円)の減少となった。平均価格は441円。観賞樹の数量は14万1千鉢で前年比19.3%(2万3千鉢)、金額は1億79万3千円で前年比11.9%(1074万5千円)で、共に増加した。平均価格は713円。苗物の数量は9万2千箱で前年比26.3%(1万9千箱)、金額は1億1137万8千円で前年比25.5%(2265万6千円)で、共に増加した。平均価格は1216円。その他花きの数量は1万8千箱で前年比43.8%(6千箱)、金額は1億2244万4千円で前年比72.3%(5139万8千円)で、共に増加した。平均価格は6764円。

##### ④(株)フラワーオークションジャパン

総取扱金額は、147億4436万8千円で前年比10.5%(13億9986万円)の増加となった。類別にみると切花の数量は8280万1千本で前年比9.5%(718万本)、金額は57億8174万4千円で前年比10.7%(5億5896万8千円)で、共に増加した。平均価格は70円。切葉の数量は807万3千枚で前年比9.4%(69万3千枚)、金額は2億5405万9千円で前年比9.6%(2228万6千円)で、共に増加した。平均価格は31円。切枝の数量は178万6千束で前年比25.6%(36万3千束)、金額は6億2222万円で前年比9.4%(538万3千円)で、共に増加した。平均価格は348円。鉢物の数量は917万8千鉢で前年比9.9%(82万8千鉢)、金額は28億2357万9千円で前年比14.0%(3億4596万3千円)で、共に増加した。平均価格は308円。らん鉢の数量は78万7千鉢で前年比18.1%(12万1千鉢)、金額は16億8072万8千円で前年比14.2%(2億866万9千円)で、共に増加した。平均価格は2135円。観葉植物の数量は405万2千鉢で前年比12.0%(43万3千鉢)の増加、金額は24億6646万8千円で前年比2.9%(7440万9千円)の減少と

なった。平均価格は609円。観賞樹の数量は108万1千鉢で前年比15.1% (14万2千鉢)、金額は5億8024万3千円で前年比3.3% (1863万7千円) で、共に増加した。平均価格は537円。苗物の数量は36万3千箱で前年比126.0% (20万2千箱)、金額は4億8395万円で前年比122.4% (2億6633万3千円) で、共に増加した。平均価格は1335円。その他花きの数量は2万7千箱で前年比63.4% (1万1千箱)、金額は5137万6千円で前年比0.1% (3万1千円) で、共に増加した。平均価格は1870円。

#### ⑤(株)東日本花き

総取扱金額は47億3231万4千円であった。部類別でみると、切花が38億1792万4千円で全体の80.7%を占めている。次いで切枝の2億6292万円で5.6%、鉢花の2億4786万3千円で5.2%の順であった。数量ではトップが切花で6163万7千本、次いで切葉が375万5千枚、切枝が145万3千束となっている。部類別平均価格は、切花が62円、切枝が181円、鉢物が479円となっている。1日当たりの取扱高は金額は、1834万2千円であった。部類別でみると切花は1479万8千円、切枝は101万9千円、鉢物は195万2千円であった。数量は、切花は23万9千本、切枝が6千束、鉢物が4千鉢となっている。

#### ⑥(株)板橋花き

総取扱金額は47億761万4千円であった。部類別でみると切花が42億6494万5千円で全体の90.6%を占めている。次いで切枝の2億4516万3千円で5.2%、切葉の1億57万4千円で2.1%の順であった。数量ではトップが切花で6589万4千本、次いで切葉が422万2千枚、切枝が124万2千束となっている。部類別平均価格は、切花が65円、切枝が197円、鉢物が3294円となっている。1日当たりの取扱高は金額は、1824万7千円であった。部類別でみると、切花は1653万1千円、切枝が95万束、鉢物が27万1千鉢であった。数量は切花が25万5千束、切枝が5千束、鉢物が82鉢となっている。

## 2 月別市況

### 1月

#### 「切花類」

総じて入荷が少ない反面、業務需要が活発となり、輪菊の品薄高が各品目に影響し、相場は全体的に強保合の市況となった。特に白系統の入荷が少なく、ストック、スナップ(金魚草)は高値で推移した。輪菊、小菊は業務需要が中心だが、品薄のために高値で推移。カーネーションは上旬は入荷増により安値だったが、中下旬は入荷が少なくなり価格は安定した。チューリップは品種的にもバラエティに富み、春の花として人気を集めた。

#### 「鉢物類」

入荷量は昨年の同時期とほぼ同じであったが、天候の影響と中旬以降に草花類の入荷が潤沢であったため、全体的に相場は弱含みの展開となった。フィロデンドロン類は、天候の影響で品質が悪く、草花類は入荷増により低調であった。コチョウラン、シンビジウムは、年内出荷が前進したため、出荷が少なく、強含みの展開となった。

### 2月

#### 「切花類」

総じて入荷は潤沢で、中旬から中旬にかけて切花の主力である、菊類の品薄高が目立ったが、中旬以降は桃の節句がらみから、菜花等入荷も増え、業務需要は活発となった。しかし、全般的にみると洋花、球根類の入荷増により価格的にはやや軟調市況となった。スイトピーは中旬までは安定市況だったが、下旬は入荷増により軟調。

#### 「鉢物類」

天候にも恵まれ、入荷量は昨年の同時期と比べ20%程度多かったが、価格は比較的安定していた。観葉植物のリース向け商品は、依然として低迷していたが、鉢花は入荷量が多かった割には相場は安定していた。コチョウランは単品、寄せ植えとも軟調な動きとなった。クンシランは良品物は好調であったが、その他は軟調市況となった。サイネリアは小輪、大輪とも安定市況となり、ポリアンタは中旬にやや苦戦したが、中旬からは堅調な市況となった。

### 3月

#### 「切花類」

荷は前年と比べて半分位の入荷増となったが、価格は昨年並の動きとなった。これは、お彼岸需要及び卒業式などのイベント行事による強い需要によるところが大きい。菊類は品薄で入荷が遅れ気味で、中旬までは市況は堅調に推移した。フリージアは黄系、紫系を中心に好市況が続いた。下旬以降はスプレー菊、カーネーション類の入荷増により、市況は低調となった。

#### 「鉢物類」

上旬から天候に恵まれ相場の動きは活発であった。洋ラン類は自然開花のコチョウランを中心に全体的に潤沢な入荷で、例年に比較して底値安定の動きとなった。観葉鉢は気温の変化に敏感であるが、大鉢の動きを中心に1~2割高で推移した。この時期は花壇苗のウエイトが高く、品種も豊富で動きは活発であった。ゼラニウムは昨年に比べ入荷が遅れ気味で、前半は高値市況となった。アザレアは人気は薄く、価格は2~3割安で推移した。サイネリアは上物を中心に活発な動きとなった。

### 4月

#### 「切花類」

荷は総じて潤沢で、上旬は入学式、入社式等のイベントによって市況は活発な動きとなった。しかし、中旬以降は業務需要もなく、また、5月には「節句」、「母の日」を控えていることから、高値を期待したが、カーネーションの入荷増により伸び悩み、価格は下落した。宿根かすみ草は、入荷が順調で相場は前年より30~40%の高値となった。デルフィニウムも月を通して順調な動きとなった。

#### 「鉢物類」

天候が安定していた関係から、総じて入荷は潤沢で価格的にも堅調な動きとなった。特に野菜苗等の苗物を中心に活発な動きとなり、ペゴニア類も人気を集めた。後半に入ると、「母の日」を控えているこ

とから、ミニバラ、カーネーションの動きが目立ち、観葉植物ではミニ観葉、その他寄せ植え鉢が人気を集めた。セントポーリアは、伊勢、岐阜を中心に前年は堅調相場で推移したが、荷の増加と共に低調市況となった。

5月

「切花類」

入荷は順調であった。菊類は、初旬から中旬は昨年並の入荷であったが、市況は弱保合で推移した。下旬は荷が少なめで、月末需要により好調市況となった。洋花類は、日もちの点で産地により価格に差異がみられ、特にバラは赤系の動きが鈍かった。カーネーションは「母の日」までは、赤系中心に昨年並の市況だったが、10日以降は低調となった。

「鉢物類」

マッサンゲアーナは中小鉢は安定していたが、大鉢は不安定な動きとなった。コチョウランは単品、寄せ植えともに盛り上がり欠け、ゼラニウムもやや苦戦した。日々草は、ポット商品より鉢植えがやや苦戦した。

6月

「切花類」

6月中の入荷としては順調であったが、価格は一般的に弱含みの展開となった。菊類は高冷地からの出荷の遅れが目立ち、輪菊、小菊を中心に高値市況となった。洋花類は日もちの点において、産地により単価の差異がみられ、特にバラは赤系の動きが鈍く、安値市況が続いた。また、季節感のあるりんどう、しゃくやくは安定した動きとなった。リヤトリスは沖縄、九州産が中心で、前半は高値で推移したが、後半に入ると低調となった。

「鉢物類」

入荷は前月に比べやや減少したものの、6月中の入荷としては安定した。価格的にみると前月に比べややアップしたが、期待した下旬からのお中元需要が、景気低迷のおおりで全般的に低調な動きとなった。観葉植物では、小鉢、大鉢ともリース向け商品が苦戦し、草花鉢ではブーゲンビリア、ハイビスカス等夏物のみが目立った動きとなった。セントポーリアは気温の上昇と共に価格が下落し、ハイビスカスは入荷量が多く、単価は例年になく底堅い動きとなった。

7月

「切花類」

総じて入荷は潤沢で、前年同月比29%の増となり、価格は盆需要により引き合いが強く、菊類・洋花類を中心に好調な市況となった。特に、上旬は盆需要により取引は活発であった。中旬以降は天候不順も手伝って若干価格を下げたものの、総体的には順調な展開であった。特に、主要品目である菊、バラ、カーネーションは、冷夏による品薄から高値で推移した。トルコキキョウは高冷地主体の動きで、上位品質の物は堅調な市況となったが、暖地物は品質格差が大きく不安定な動

きとなった。

「鉢物類」

入荷量、価格とも前年同月比を上回り、比較的安定した動きであった。観葉植物は、リース向け商品は一般的に軟調な市況となったが、その他は安定した動きであった。らん鉢は前半から好調市況となったが、鉢花はセントポーリアなど花痛みが早い物は買い控えが目立ち、軟調な市況となった。インパチェンスはニューギニア系の良品物は好調で、日々草は、鉢植えに比べてポットのほうが引き合いが強かった。

8月

「切花類」

総じて入荷は順調で、価格は弱含みの展開となった。全体的に台風と長雨の影響で出遅れた品目が多く、盆需要期には品薄の品目も出て高値市況となった。しかし、中旬から下旬にかけて消費地の販売も台風の影響を受けて不安定な動きとなり、弱保合の展開となった。主に輪菊、小菊は軟調な市況となり、品質的にも長雨の影響を受け、病害、短幹物が多かった。

「鉢物類」

8月は年間を通じて入荷が少ない月で、前月に比べて30%近く減少した。価格も前月比18%の減となった。鉢花、苗物類は前半の相場は堅調であったが、中旬以降は軟調市況となった。観葉鉢のリース向け商品は、大鉢を中心に苦戦し、らん鉢はコチョウランの単鉢を除きやはり苦戦した。苗物等は中旬までは相場はしっかりしていたが、下旬にかけて軟調市況となった。

9月

「切花類」

入荷は総体的に少なめで、特に天候不順の関係で中旬から荷が品薄となり、品質的にも良品物が少なかった。だが、取引は彼岸から下旬にかけて活発な動きとなり、市況は高値で推移した。特に彼岸ということから草花、枝物の動きは強めの展開となった。輪菊、小菊は彼岸の後半から品薄となり高値の動きとなった。カーネーションは長野、北海道の出荷がピークで、活発な取引となった。りんどうやトルコキキョウは長雨等の悪天候の影響で、入荷が少なく高値市況となった。

「鉢物類」

冷夏の影響で夏物の出荷が10日前後ずれ込んだこともあり、入荷は潤沢で、価格的には前月と比較して保合の市況となった。観葉物は、リース向け商品を中心に苦戦したが、吊りは安定した動きとなった。らん鉢は「敬老の日」を中心に活発な動きとなった。カランコエは4〜7号鉢まで入荷が潤沢で、市況も安定した。シャコバサボテンは、前半かなり苦戦したが、後半に入って持ち直した。

10月

「切花類」

入荷量は生産地の暖地と高冷地の入れ替わりと、10月出しの作付面

積の減少及び天候不順も重なり、9月中旬から減少した。平均価格は、前年が入荷増によりダウンしたが、本年は前年同月比27%増、前月比7%増となった。小菊は絶対量不足から堅調相場となった。カーネーションは暖地の遅れが品薄の原因となり、また、ブライダル需要も重なり強保合市況となった。ガーベラは品揃えがよく、安定した入荷で単価も安定していた。

「鉢物類」

入荷量は総じて順調で、価格はやや弱含みの動きとなった。観葉物は相変わらずリース向け商品が低迷し、らん鉢はコチョウランの単鉢の品薄状態が続き、デンファレ、オンシジューム等がやや苦戦した。シクラメンは中旬頃から品質、価格とも上向いた。苗物ではパンジーの入荷が多く、単価は尻上がり状態となった。

11月

「切花類」

9月中旬から品薄高となった相場は、11月に入るとブライダルシーズンも終わりに近づき、入荷は少なめながら相場は安定して来た。菊類は若干品薄傾向から強保合の動きとなり、洋花類も高冷地の端境期となったため、強含みの展開となった。ストックは産地の品質格差から相場はまちまちで、フリージアは中旬から国産品が多く出回るようになり、品質が安定してきた。枝物類は、紅葉物・実付物が中値市況で葉物類は、スマイラックスがブライダル商品として安定した動きとなった。

「鉢物類」

例年だと12月の大需要期を控え、11月は谷間となるケースが多いが、本年は冷夏の影響で夏物出荷がずれ込んだため、商品はそろったものの、景気の冷え込みにより業務需要が伸びず、弱含みの展開となった。シンビジュームは品種によって人気を集めた商品(プリンセスまさこ)があり、弱含み展開であった。ポインセチアは、品質面においてかなり向上し人気を集めたが、後半に入ってやや苦戦した。

12月

「切花類」

冷夏と天候不順により9月中旬から品薄高となった市況は、12月に入っても期待量ほど入荷せず、年末需要も手伝って、相場は一昨年並みの高値となった。特に、主力の菊類が品薄で、赤系、黄系を中心に高値の動きとなった。カーネーションも堅調で、クリスマス、年末需要の関係から赤系、ピンク系が好調となった。チューリップは上旬はピンク系が安定していたが、中下旬からは赤系中心の動きとなった。フリージアは全般的に堅調な動きとなったが、特にブルー、黄系の引き合いが強かった。また、年末の仕入れは第4週から動き出し、絶対量が少ない水仙等は、間際まで堅調に推移した。

「鉢物類」

冷夏の影響で、夏物出荷がずれ込み、11月に商品が出揃って、弱含みの展開だった相場は、12月に入っても景気の低迷により回復せず、その中において主品目の明暗が分かれる形となった。シクラメンは6

寸から5寸に移行し、シンビジュームは新品種のブームで下位等級まで引き合いが強く、価格帯の底上げにより相場は活況となった。ポインセチアは良品物が多かったが前半低調で、後半は品薄により高値の動きとなった。プリムラ類は中旬にやや苦戦したが、その後安定した動きとなった。